



〈写真中央が筆者〉

チュラロンコン大学との ワークショップを通して 〈理工学研究科国際建築ワークショップ〉

明治大学大学院理工学研究科建築学専攻
博士前期課程国際プロフェSSIONALコース 1年
加藤麻理奈

2015年8月、タイ・チュラロンコン大学 (INDA) と明治大学の合同国際ワークショップが開催されました。今回のワークショップは建築学専攻の授業の一環として行われ、国際プロフェSSIONALコース (I-AUD) だけでなく、通常は別に授業を行っている生田キャンパスの学生も参加していました。

現在バンコクでは、市内を流れるチャオプラヤー川に沿って大型開発が次々と進行しています。しかしそれらの開発は大規模かつ高級志向なもので、開発によってその地域の歴史や特徴が大きく失われてしまうものばかりでした。そこで私たち学生に課せられたのは、同じチャオプラヤー川沿岸にあるチャイナタウン・ヤワラー地区の対岸にあるコミュニティーに対し、地域が抱える諸問題をコミュニティーの生活に則した方法で解決し、より良い生活を実現するための開発を提案することでした。

INDA から2名、明治から3名で構成された私たちのグループは、議論の過程で困難にぶつかることもありました。専攻や文化など各々が持つ異なるバックグラウンドが考え方の違いを生み、なかなか折り合いがつかないこともありました。それでも、考え方のずれを互いにフォローし合い、時には教授からアドバイスを受けながら、最後まで最良の提案をしようと力を合わせました。

国際ワークショップの面白さは、他国の学生の技術や考え方に触れ、彼らから学ぶことにあると思います。国際ワークショップに参加するのは今回が4回目でしたが、毎回多くのことを学ぶことができると感じます。グラフィックススキルだけでなく、海外の学生独自の物事の捉え方、そして経験豊富な教授から得られる多角的な視点など、普段の授業では得られない事を吸収する絶好のチャンスなのです。一方で、回数を重ねても、母語ではない英語での議論には苦戦する場面も多くあります。しかし何度もこのような機会を重ねる事で、着実に実力が付き、自分の強みにも気づけました。今後国際的な場に立つ機会は今まで以上に増えていくはずで、今回のワークショップも含めこれまで海外で得た経験が私の成長の糧となり、将来の活躍を後押ししてくれると信じています。